

<b>NLE</b> Yokohama		Taro6 取り扱い説明書-取付け編	Technical Cataloge	
March. 18. 2009			T 001 175 J	
R&D GN	Ver. 06		Page	1 / 40

# NLE

## YOKOHAMA JAPAN

Nippon Lifts Engineering Inc.

### 非常通話装置 Taro6

技術基準適合認定番号  
A08-0133004

#### 適用型番

DT6-P-\*\*\* Taro6 PHS回線タイプ  
DT6-M-\*\*\* Taro6 NTT回線 (Modem)タイプ

注) 型番の\*\*\*は、オプションを表す3文字の英字になります。  
例: DT6-P-ABN PHS: 外部アンテナ: 電源付き

改版履歴(1 / 1)

Version	Date	Writer	Description
p0	2008/12/04	GN	Taro6 Ver1 pre release
00	2008/12/09	SK	Taro6 現場向けマニュアル編集
01	2008/12/09	ST	名称の修正
02	2008/12/09	HY	##0 説明文の修正
03	2008/12/09	HY	着信動作説明文の修正
04	2009/03/09	SK	P34 着信動作説明文の修正
05	2009/03/18	SK	インターフォン会社の追記及び音声ボリュームの記載変更
06	2010/03/1	SK	アナログPAUの注意事項、ベースプレート廃止、インターフォン真理値記載、アース線追記

## 目 次

1. 取付け手順 概要	1 1
2. 事前作業	1 2
2.1 電話回線の準備	1 2
2.2 接続するインターフォン型式確認	1 2
2.3 基板の確認	1 3
3. 取付け作業	1 4
3.1 取付け場所の選定	1 4
3.2 本体取付け	1 4
3.3 アース線の取付け	1 4
3.4 インターフォンとの接続	1 4
3.5 電話回線の接続	2 0
3.6 リセットボタン	2 0
4. 着信確認作業	2 1
4.1 電源の投入	2 1
4.2 NTT回線	2 2
4.3 PHS回線	2 4
5. 設定作業	2 7
5.1 設定手順	2 7
5.2 設定コマンド	2 8
6. 動作確認作業	3 1
6.1 発信動作・着信動作の確認	3 1
6.2 通話中の確認	3 4
7. 終了作業	3 5
7.1 バッテリー接続	3 5
8. 特記事項	3 6
9. インターフォン信号真理値表	3 6
9.1 6V単局 / 6V多局LEDランプ動作表示	3 6
9.2 24V単局 / 24V多局LEDランプ動作表示	3 7
付録1 装置仕様	3 8
付録2 部品配置図	4 0

## はじめに

- ・ご利用いただきましてありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られる場所に保存してください。
- ・この製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本機を使用できるのは日本国内のみです。国外では使用できません。
- ・また本装置の保証サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではご利用できませんのでご了承ください。

## 注意事項

- ・本機器を不法改造すると法令により処罰されることがあります。
- ・本機の技術基準適合証明ラベルや製造番号をはがさないでください。効力を失う等、使用できなくなる場合があります。

## 保証及び修理について

### 無償保証期間

- ・無償保証期間は、納入後12ヶ月です(有償修理品の故障に対しては、同一部位のみ修理後3ヶ月)。
- ・無償保証期間終了後は、有償での修理となります。

### 無償保証範囲

- ・上記無償保証期間中、弊社製品の使用環境・使用状態・使用方法などがマニュアル・取扱説明書・製品本体注意ラベル等に記載された諸条件や注意事項に従っていた場合にのみ限定致します。
- ・無償保証期間内であっても、次のような場合には有償修理となります。
  - 納入後の輸送(移動)時の落下、衝撃等、貴社の取扱い不适当により生じた故障損傷の場合。
  - カタログ・マニュアル記載の仕様範囲外で、使用された場合。
  - 取扱説明書に基づきメンテナンス、消耗部品の交換保守等が正しく行われていれば防げたと思われる故障の場合。
  - 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
  - 接続している他の機器、および不適当な消耗品の使用に起因して本製品に生じた故障および損傷。
  - 販売当時の科学・技術の水準では予見できない原因による故障の場合。
  - その他、貴社による故障、損傷または不具合の責と認められる場合。

- ・弊社以外で修理、改造等をされたと認められる場合には、たとえ有償であっても修理をお断りすることがございます。

### 生産中止と中止後の修理期間(有償修理)について

- ・弊社製品の生産中止は、最終出荷の3ヶ月前に通知・連絡いたします。
- ・生産中止を通知した月を起点として1年間は、当該製品の修理を行います。(2008年12月現在)
- ・上記期間に限らず、交換部品が入手不可能となった場合には、修理できなくなることがございますのでご了承ください。

### 修理条件

- ・修理は、弊社製品のみを対象といたします。
- ・修理に際し、お客様のプログラムやデータが消失することがございますので、予めデータを保存するようにしておいてくことをお勧め致します。
- ・修理は、センドバックによる弊社工場修理を原則とさせていただきます。この場合、弊社工場への送料はお客様のご負担にてお願い致します。
- ・修理にて交換された部品の所有権は株式会社 日本リフツエンジニアリングに帰属するものといたします。

## 免責

- ・本書の内容に関しては、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点があれば、弊社カスタマーサービスまでお問い合わせください。
- ・また上記に関わらず、以下の事柄については弊社はいっさい責任を負いません。
  - 本製品に付随する、または運用の結果もたらされたいかなる損害。
  - 本製品によりもたらされるべき、直接的、間接的な効果および利益の損失。
  - 本製品のために費やした時間、経費。
  - 弊社の責任によらない製品の損傷、破損、または改造による故障や不具合など。
  - 本製品をご使用になって生じたデータの消失、または破損。
  - 本製品をご使用になって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常。
- ・弊社は、製品および本書を改訂し、随時その外観・内容のすべてを変更する権利を有します。またその際に、改訂または変更をいかなる個人または団体に対して通知する義務を負いません。

## 版權

- ・本書は弊社が著作権を有します。
- ・本書の一部または全部について、弊社の書面による承諾を得ない以下のことを禁じます。
  - 形式または手段を問わず複製・複写・転載すること。
  - 派生物(翻訳・変形・改作・流用)を作成すること。

## 安全に関する表示について

・本製品を安全に正しくご使用頂くために、注意事項を次のような表示と図記号で表しています。ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ず守ってください。

・表示と意味は次のとおりです。



危険

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 安全上のご注意



### 危険

#### バッテリーの取扱い

- ・バッテリーは以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因になります。  
本製品以外の機器に取付けないでください。  
火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしないでください。  
端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- ・液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後直ちに医師の治療を受けてください。液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



### 注意

#### 使用環境・条件

##### 設置環境条件

- ・本製品の上に重いものを置かないでください。故障・けがの原因になります。
- ・本製品は主電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)へ容易に手が届くようにしてください。万一、機器から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに機器本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・濡れた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- ・本製品を直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因になることがあります。
- ・本製品を布などでおおったり、包んだりしないでください。設置の際は本製品と壁の間に1cm以上のすき間をあけ、通気孔などの開口部をふさがないでください。また、通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にほこりを取ってください。内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- ・電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となることがあります。
- ・アース線はガス管には絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- ・電源プラグは、壁のコンセント(AC100V)に直接かつ確実に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。感電・火災の原因になります。



- ・電源プラグはコンセントから定期的に抜いて、コンセントとの接続部分のほこりやゴミを乾いた布でよくふき取ってください。ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因となります。
- ・ACアダプターの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。感電・火災の原因になります。
- ・電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを乗せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。
- ・近くで落雷のおそれがある場合は、本製品の電源ケーブルや電話ケーブルを抜き、雷が止むまで取り付けしないでください。そのまま使用すると、落雷による感電・火災の原因となります。
- ・添付もしくは指定された以外のAC アダプタを本製品に使ったり、添付のACアダプタを他の製品に使ったりしないでください。感電・火災の原因になります。
- ・振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。本製品が倒れたり、落下して、故障やけがの原因になります。
- ・AC アダプタや電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込み、不完全な接続状態で使用しないでください。火災・故障の原因となることがあります。
- ・電源ケーブルをぬくときは、電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり、断線したりして、感電・火災の原因になることがあります。
- ・本製品を移動する場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。
- ・作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因になったり、本製品が落下したり倒れたりして、故障やけがの原因になることがあります。

#### 使用環境・条件

- ・直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因になることがあります。
- ・湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因になることがあります。
- ・ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因になることがあります。
- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因になることがあります。

**使用方法について 保守・点検**

- ・お手入れの際は、電源アダプターをはずし、バッテリーを外してください。
- ・水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

**異常時の処置について**

- ・内部に水や異物が入った場合や、落したり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
- ・煙が出たら、すぐに電源アダプターをはずし、バッテリーを外してください。

## 1. 取り付け手順 概要

Taro6を以下に示す手順で取り付けます。

**STEP 1**

**事前作業**      詳細は「2. 事前作業」を参照してください。  
電話回線の準備  
基板の確認

**STEP 2**

**取付け作業**      詳細は「3. 取付け作業」を参照してください。  
取り付け場所の選定  
インターフォンの接続  
電話回線の接続

**STEP 3**

**着信確認作業**      詳細は「4. 着信確認作業」を参照してください。  
着信確認

**STEP 4**

**設定作業**      詳細は「5. 設定作業」を参照してください。  
パラメータの設定

**STEP 5**

**動作確認作業**      詳細は「6. 動作確認作業」を参照してください。  
発信動作  
着信動作

**STEP 6**

**終了作業**      詳細は「7. 終了作業」を参照してください。  
バッテリー接続

## 2. 事前作業

### 2.1 電話回線の準備

#### 1) PHS回線の場合( DT6 - P - \* \* \* )

PHS回線の開通事務手続を行っておく必要があります。

#### 2) NTT回線の場合( DT6 - M - \* \* \* )

開通済みのNTT回線を用意してください。

本装置のTELコネクタはRJ-11です。

一般の電話モジュラ-ケーブル(6芯)で接続することができます。

### 2.2 接続するインターフォン型式確認

#### 1) 1台で下記に示す日本インターフォン社製インターフォンに対応(オール イン ワン)。

表2.2-1 対応するインターフォン

製造メーカ	種類		親/子	型番	接続数	備 考
日本インターフォン	6V	単局	親機	E-01MV/E-01MV2	1	
			子機	E-01RV(C)	1	
		多局	親機	E-06MV(2)	1	
			子機	E-06RC(C)	1 ~ 4	
	24V	単局	親機	EZ-01MV(2)	1	
			子機	EZ-RV(C)	1	
		多局	親機	EZ-05(10)MV	1	
			子機	EZ-RV(C)	1 ~ 4	
アイホン	-	-	-	-	-	未対応

2.3 基板の確認

1) デイップスイッチの確認と設定

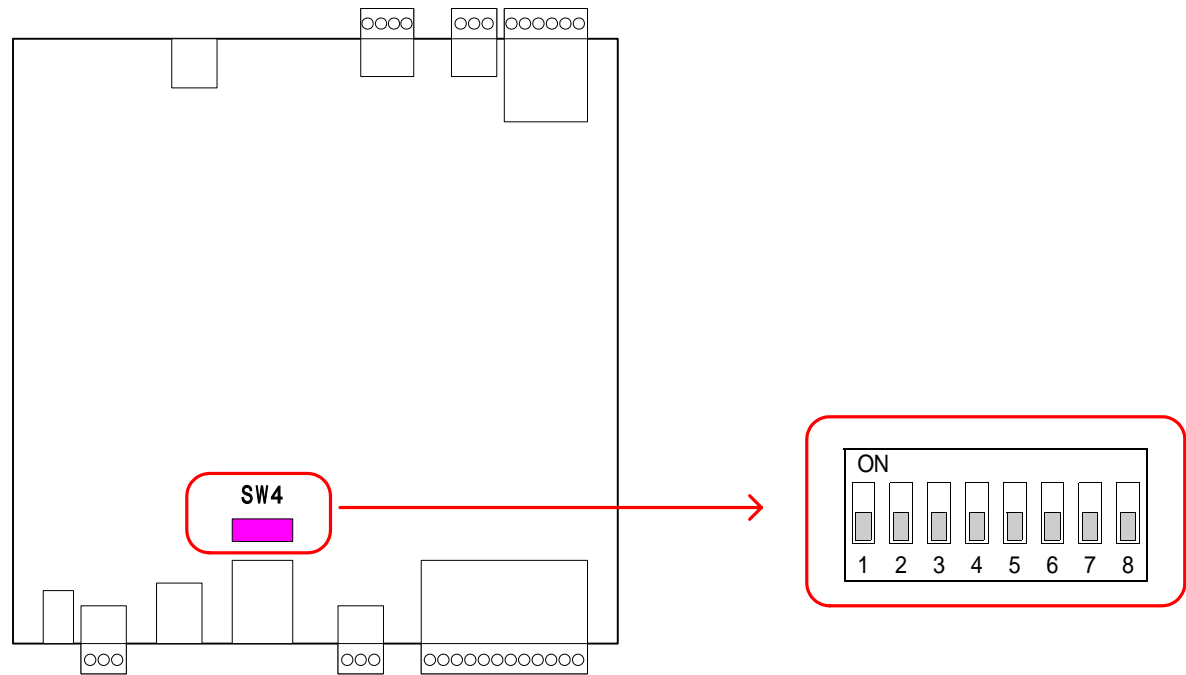


図2.2.2-1 デイップスイッチ

- DSW-1 インターフォンの電圧を指定します。  
OFF: 6V  
ON: 24V
- DSW-2 インターフォンの子機種種別を指定します。  
OFF: 単局  
ON: 多局
- 注意

TELコネクターにアナログPAUを接続する場合は、DSW-3 (デイップスイッチ3)をOFF (NTT) に設定下さい。
- DSW-3 電話回線の種別です。  
型番がDT6-M-\*\*\*の場合は、OFF: NTT回線 になっていることを確認してください。  
型番がDT6-P-\*\*\*の場合は、ON:PHS回線 になっていることを確認してください。
- DSW-4 ; DSW-5 : DSW-6 : DSW-7 : DSW-8  
本装置では必ずOFFにして下さい。

種別			デイップスイッチ							
回線	電圧	局数	1	2	3	4	5	6	7	8
NTT	6V	単局	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	6V	多局	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	24V	単局	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	24V	多局	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	6V	単局	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	6V	多局	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	24V	単局	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	24V	多局	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

### 3. 取り付け作業

#### 3.1 取り付け場所の選定

##### 1) 全般

- 直射日光が長時間あたる場所は避けてください。
- 本体へ常に水がかかる場所は避けてください。

##### 2) PHS回線の場合

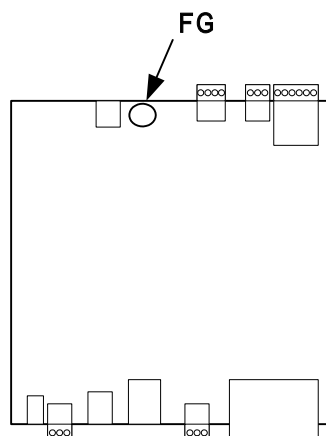
- 加入契約されたPHS事業者のサービスエリア内であること。
- 建築・構造物で電波が遮断されていないこと。
- 特に金属の壁面への取付は避けること。

#### 3.2 本体取付け

本装置は壁取付け用に上部と下部に取り付け穴を用意しています。付属のネジで留めてください。

#### 3.3 アース線の取付け

本装置の基板FG部分にアース端子を設けてあります。納品時は丸端子が取り付けられて居ます。建屋へのアース接続を行ってください。



#### 3.4 インターフォンとの接続

##### 1) インターフォン電圧の確認

6Vの場合、親機と子機で通話中のときインターフォン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が5.0V(定格6V)以上であることをテスターで確認してください。

24Vの場合、親機と子機で通話中のときインターフォン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が20V(定格24V)以上であることをテスターで確認してください。

##### 2) インターフォンとの接続



##### 注意

- 安全の為、インターフォン側の電源を切った状態で作業を行ってください。
- 使用する線は、単線/撚線 AWG#28-#16 1.5mm<sup>2</sup> 被服剥き処理 6-7mm
- インターフォンの端子と本装置の端子TB4を次ページ以降に示す接続図を参考にして接続してください。

図3.4.2-1 インターフォンを接続する端子(TB4)図

図3.4.2-2 インターフォン6V単局の接続図

図3.4.2-3 インターフォン6V多局の接続図(標準型)

図3.4.2-4 インターフォン6V多局の接続図(H型)

図3.4.2-5 インターフォン6V多局の接続図(RG2型)

図3.4.2-6 インターフォン24V単局/多局の接続図

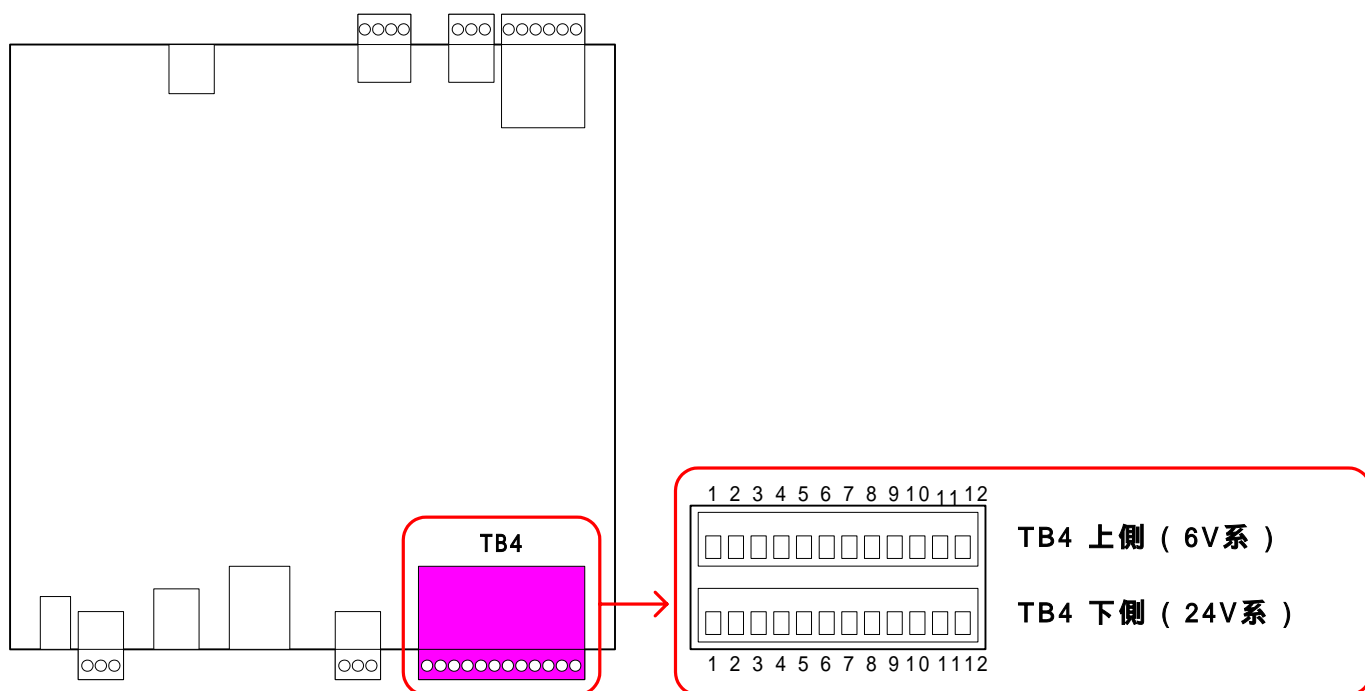


図3.4.2-1 インターフォン接続端子 (TB4)

表3.4.2-1 インターフォン接続端子の割り当て(TB4)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
TB4-上側	6V系	L	R	-	+	C	M1	M2	M3	M4			
TB4-下側	24V系	+	-	L1	L2	1A	1B	2A	2B	3A	3B	4A	4B

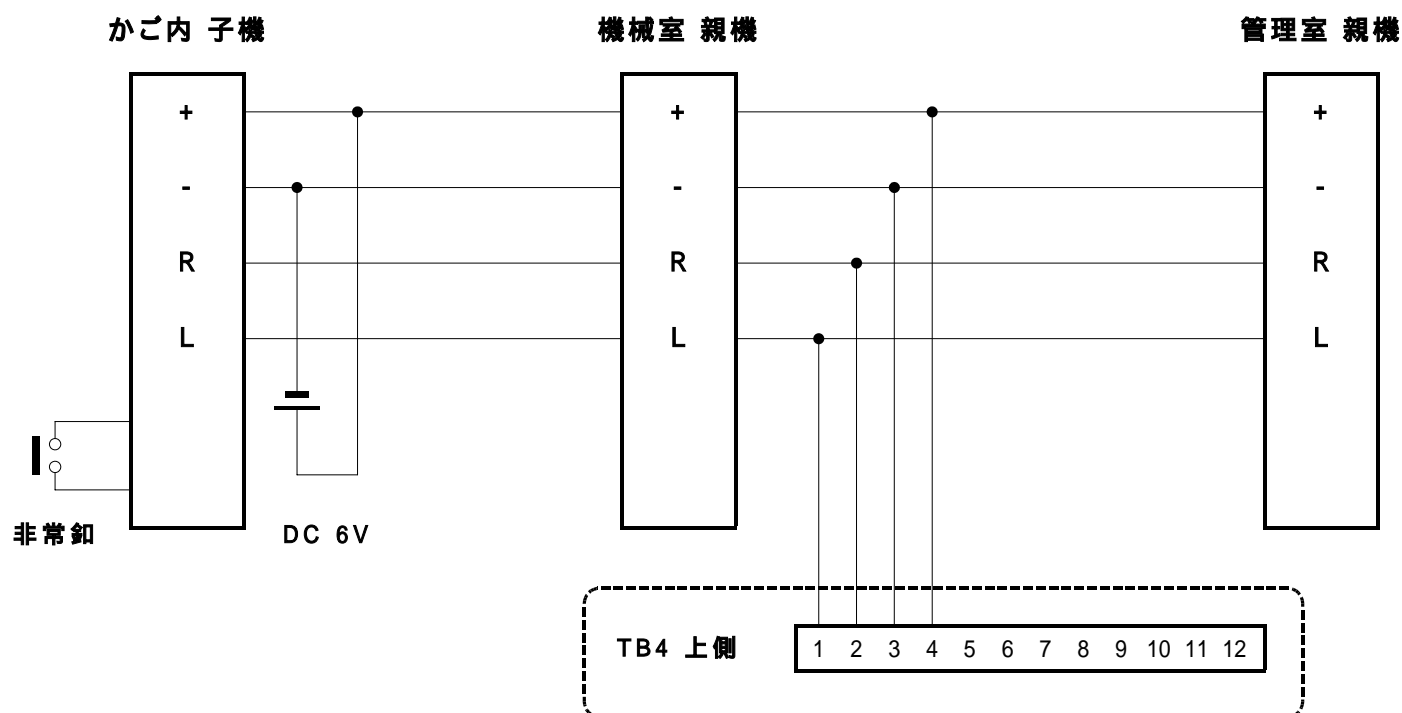


図3.4.2-2 インターフォン 6V単局接続図

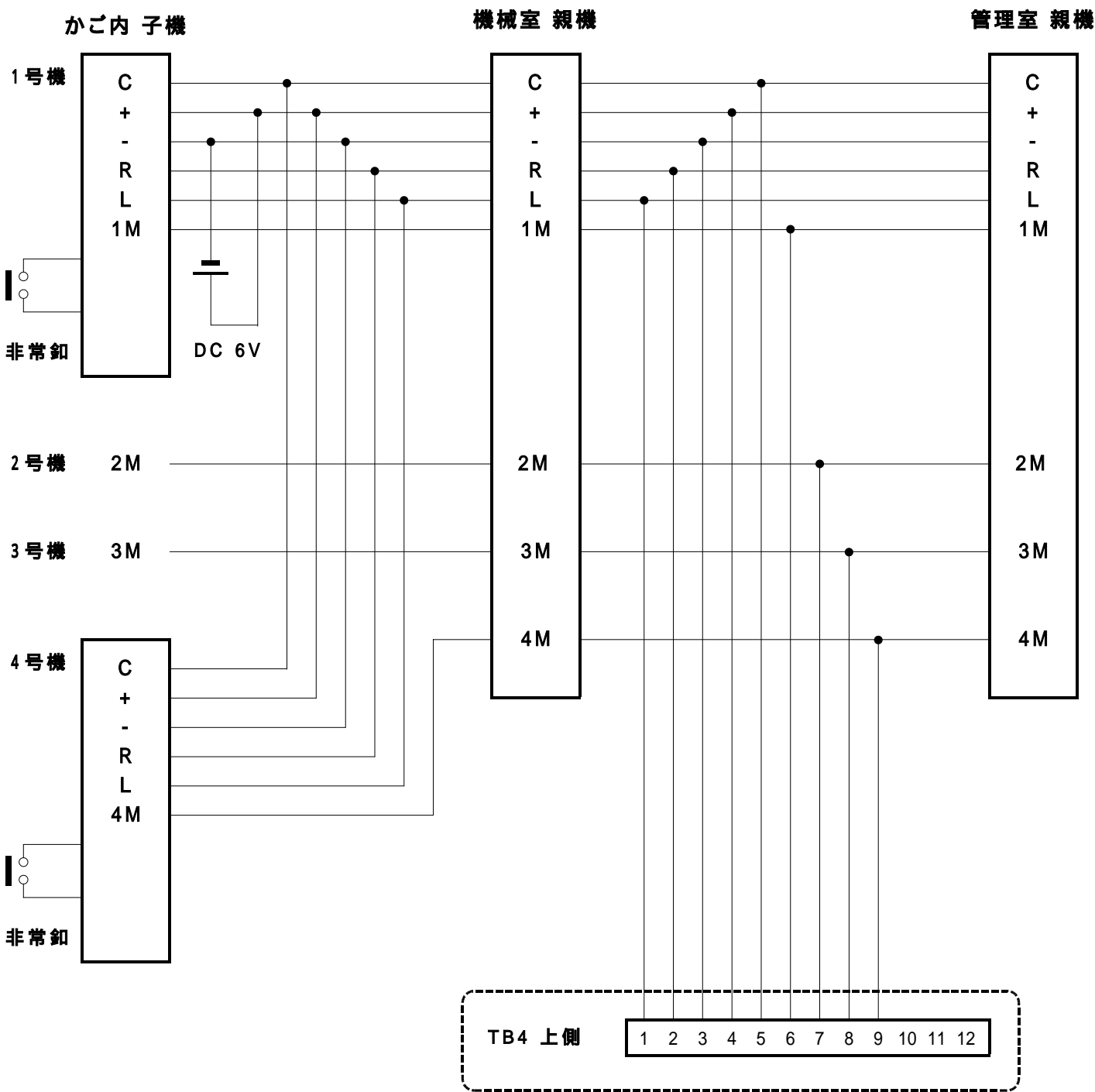


図3.4.2-3 インターフォン 6V多局接続図( 標準型 )

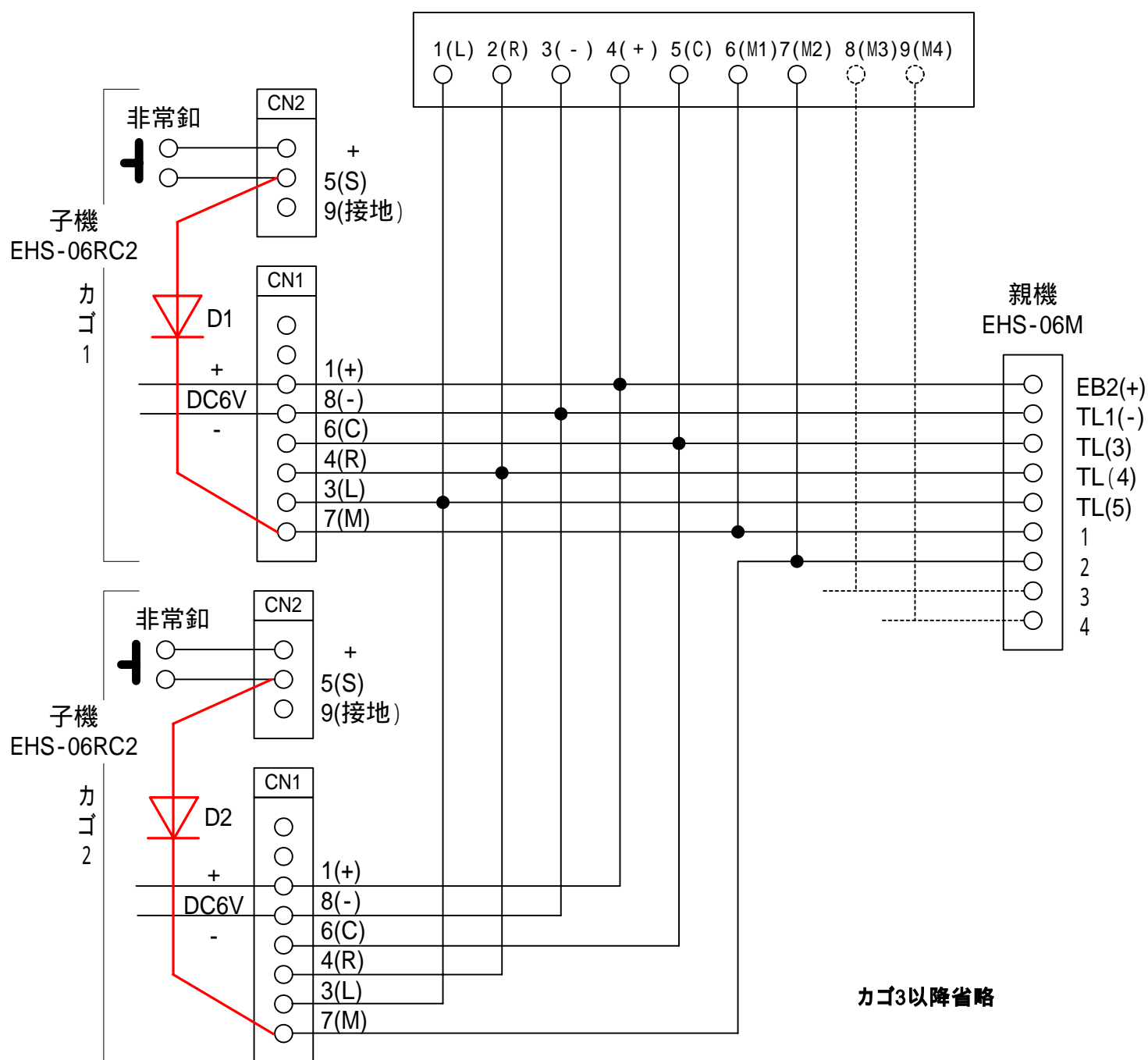
注)

H型の場合は、図3.3.2-4 インターフォン 6V多局接続図( H型 ) を参照してください。

RG2型の場合は、図3.3.2-5 インターフォン 6V多局接続図( RG2型 ) を参照してください。

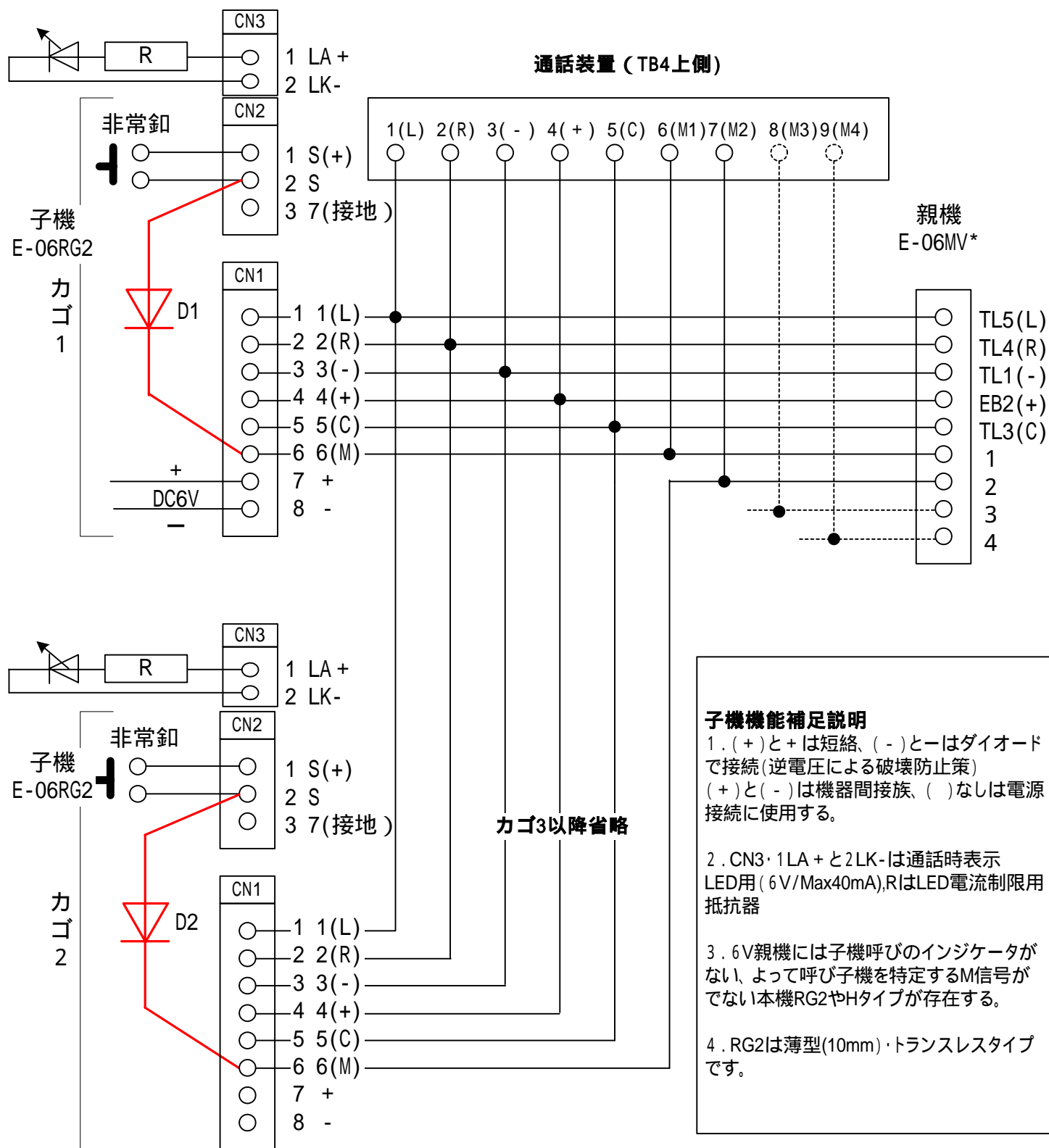


## 通話装置( TB4上側 )



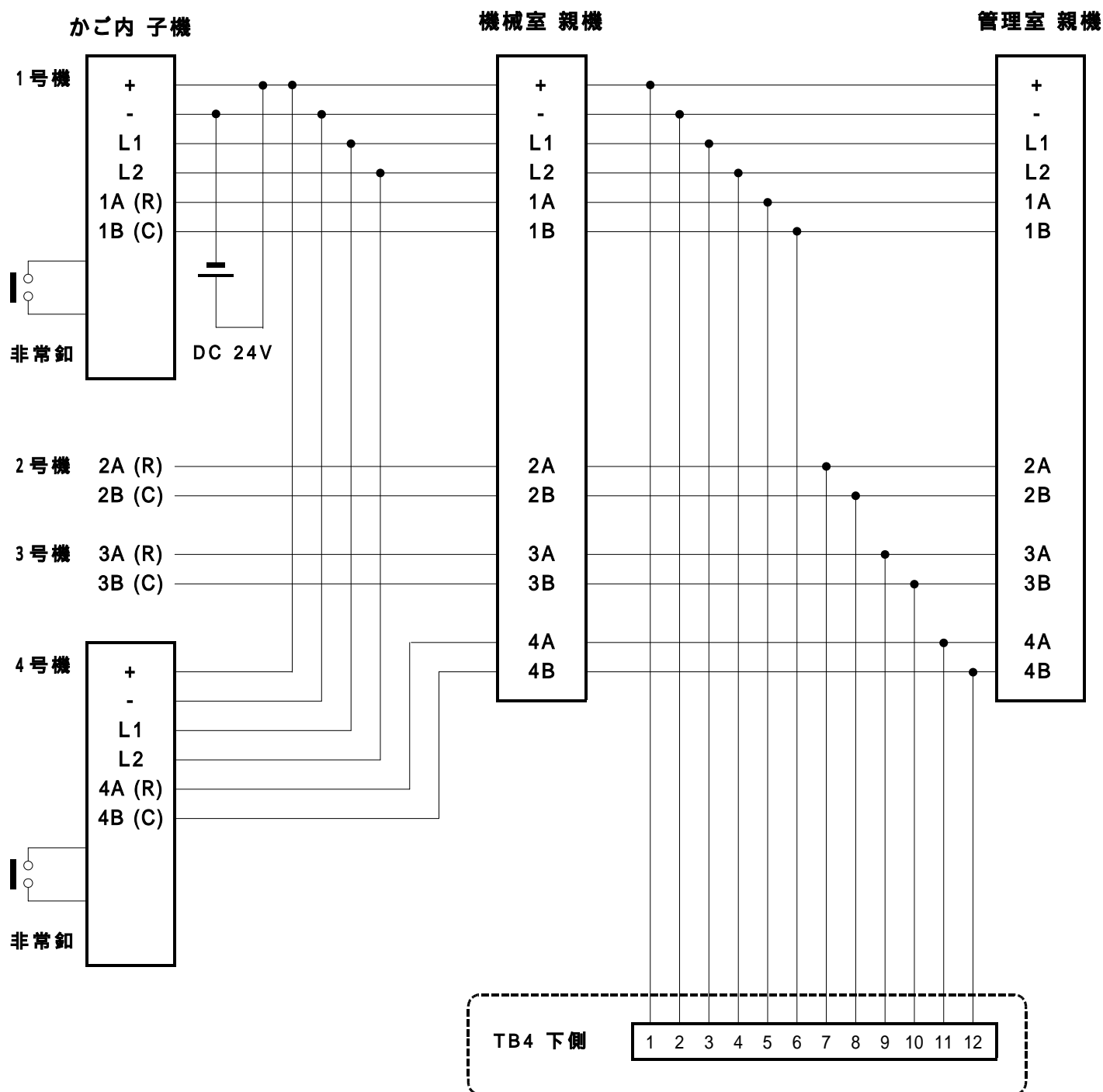
- 本図はEHS-06M EHS-06RC2インターフォンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図です。
- 子機の非常釦を押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図です。
- 朱書き部のD1、D2……ダイオードを追加します。  
D1,D2: 逆電圧12V以上、順電流10mA、ダイオード1S1588相当(東芝)
- 本回路図は一例です。  
本図を参考にあシステム(実配線)に応じた追加工事を行ってください。

図3.4.2-4 インターフォン 6V多局接続図( H型 )



- 本図はRG2形インターフォンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図です。
- 子機の非常釦を押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図です。
- 朱書き部 ( CN2・2 ~ CN1・6 の間に D 1、D 2・・・ダイオードを追加してください。  
ダイオード仕様：逆電圧12V以上、順電流10mA。ダイオード1 S 1 5 8 8 相当 ( 東芝 )
- 本回路図は一例です。  
本図を参考に実システム ( 実配線 ) に応じた追加工事を行ってください。

図3.4.2-5 インターフォン 6V多局接続図( RG2型 )



**図3.4.2-6 インターフォン 24V単局/多局接続図**

### 3.5 電話回線の接続

#### 1) 電話回線の接続

##### a. NTT回線の場合( DT6 - M - \* \* \* )

CN3-TELに一般の電話モジュラ-ケーブル(6芯)を接続します。

##### b. PHS回線-内部アンテナの場合( DT6 - P - N \* \* )

PHSユニットに内部アンテナが接続してあります。

##### c. PHS回線-外部アンテナの場合( DT6 - P - A \* \* )

添付された外部アンテナをPHSユニットに接続してください。

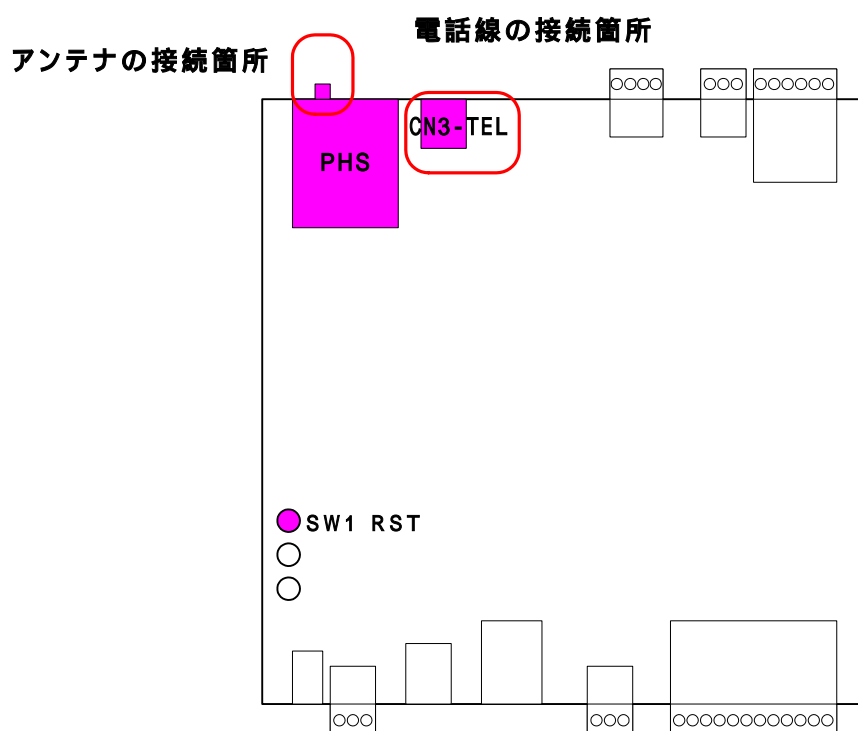


図3.5.1-1 電話回線関連の端子図

### 3.6 リセットの方法

上記のボタン(SW1 RST)を押すとリセットされます。



4.2 NTT回線

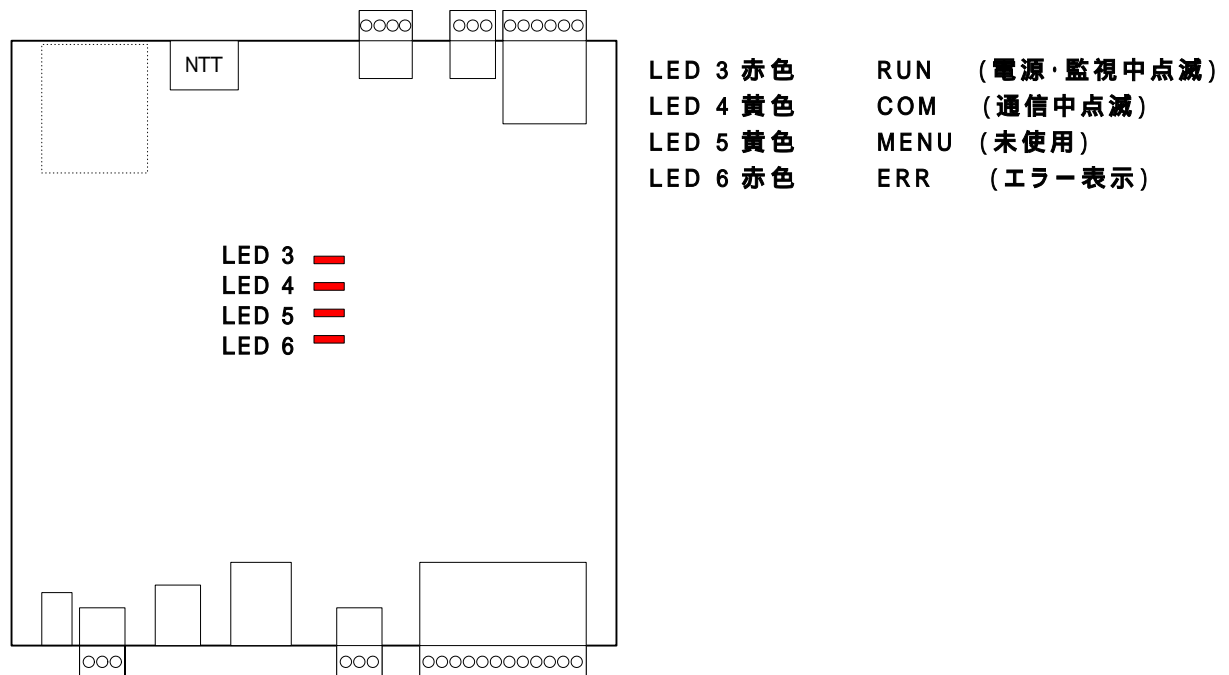


図4.2-1 実装図( NTT回線 LED )

- 1) 初期化～監視中
- 電源を投入します。
- 4.1項を参照
- 図4.2-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。
- 1 初期化中  
LED3、LED4、LED5が順次点滅
  - 2 監視中  
LED3のみ点滅

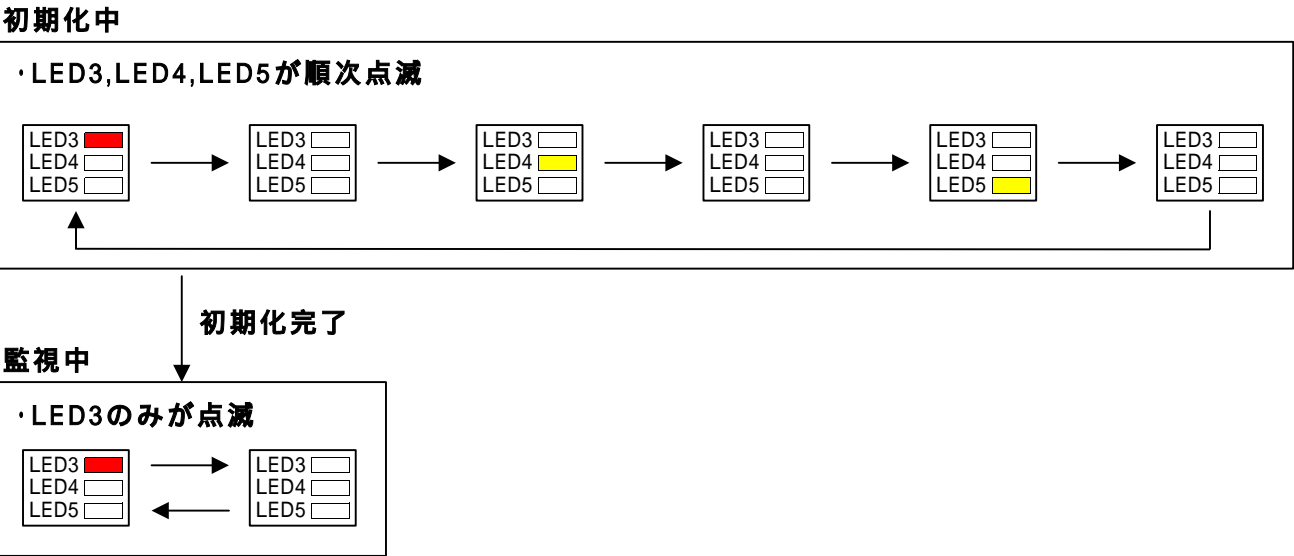


図4.2-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)

## 2) 着信確認

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。

ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。

呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。

連続音が止まると通話状態になります。

・通話中はLED4のみが点滅します。

発信側より通話を終了することで回線を切断します。

・回線切断後は、監視中に戻りLED3のみが点滅します。

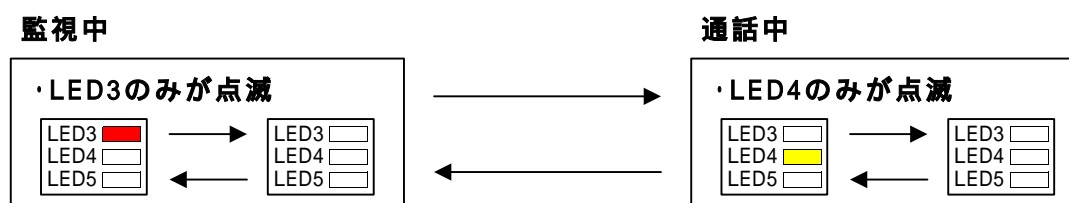


図4.2-3 状態LEDの遷移(音声着信)

4.3 PHS回線

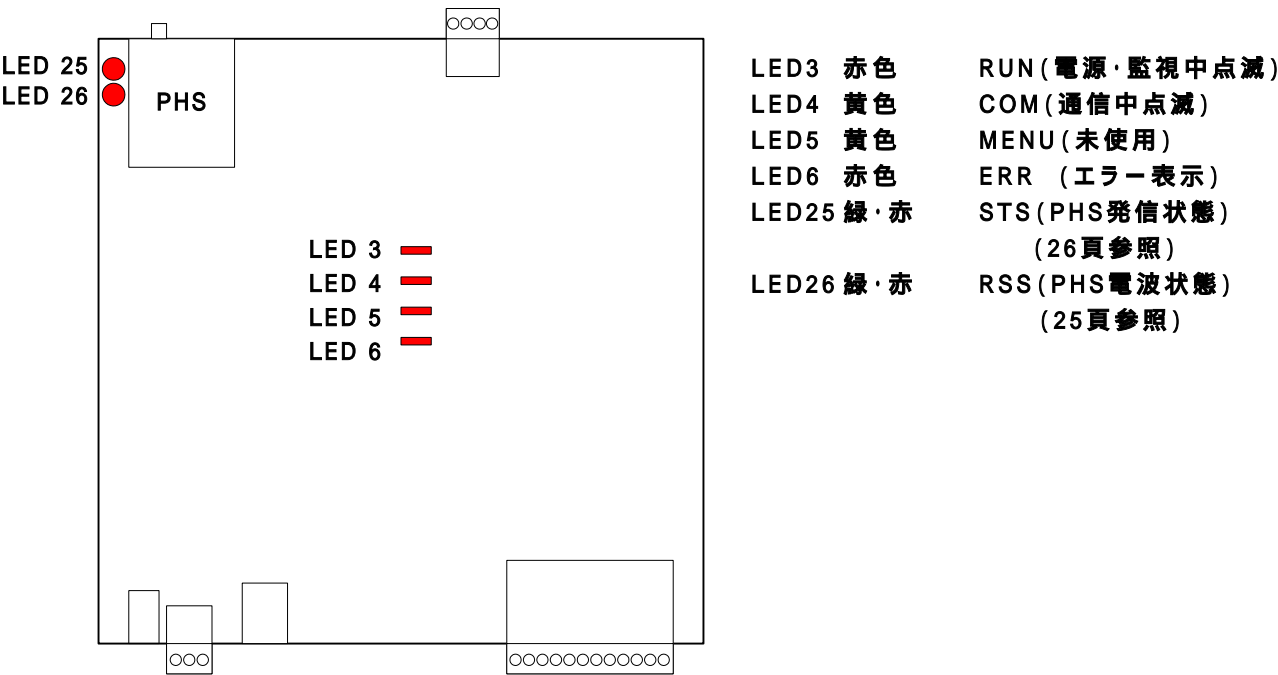


図4.3-1 実装図( PHS回線 LED )

- 1) 初期化～監視中
- 電源を投入します。
- 4.1項を参照
- 図4.3-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。
- 1 初期化中  
LED3,LED4,LED5が順次点滅
  - 2 監視中  
LED3のみ点滅

初期化中

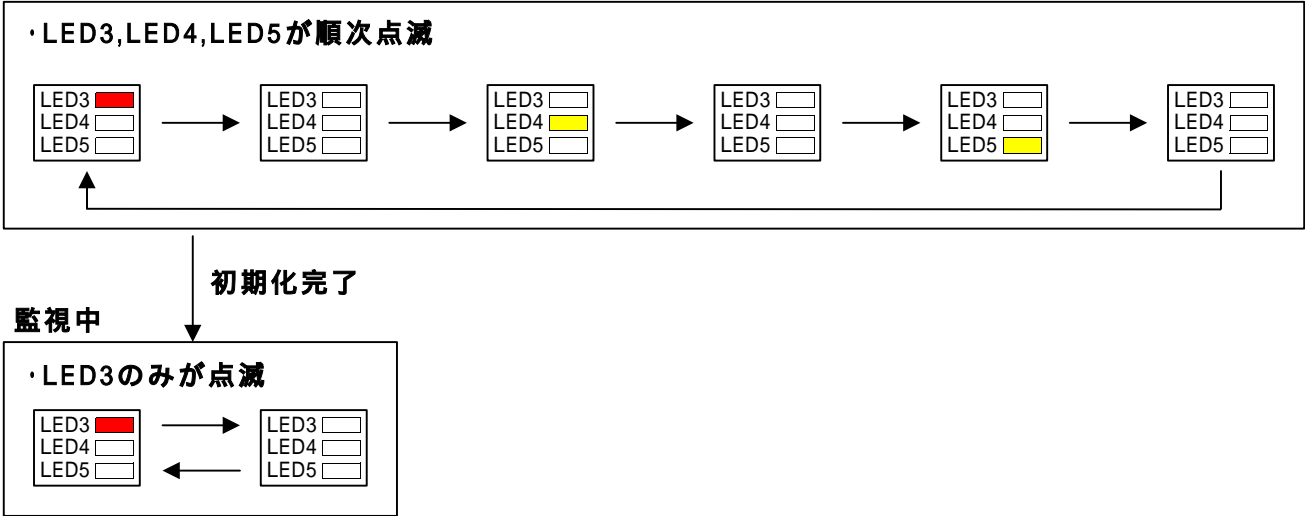


図4.3-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)



## 2) 電波状態の確認

図4.3-3に示すRSS(LED26)の表示内容で電波の状態を確認します。

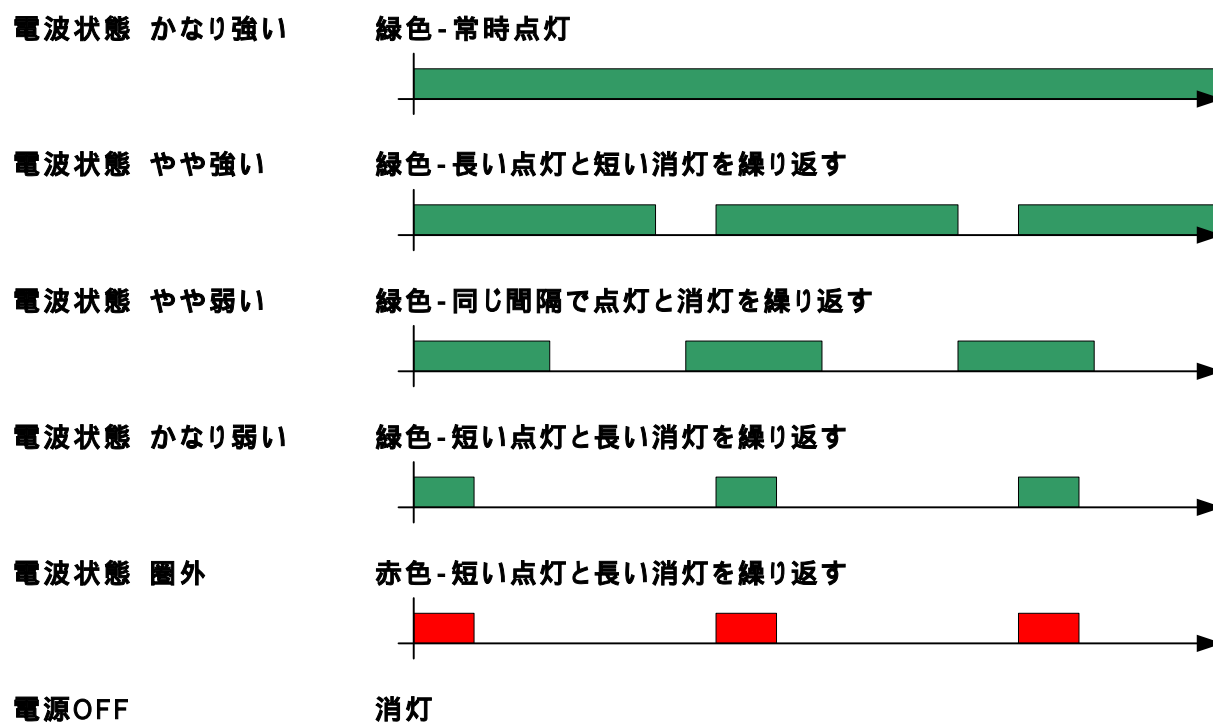


図4.3-3 電波状態(LED26)の表示内容

### 3) 着信確認

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。

ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。

呼び出し音が止まると通話状態になります。

発信側より通話を終了することで回線を切断します。

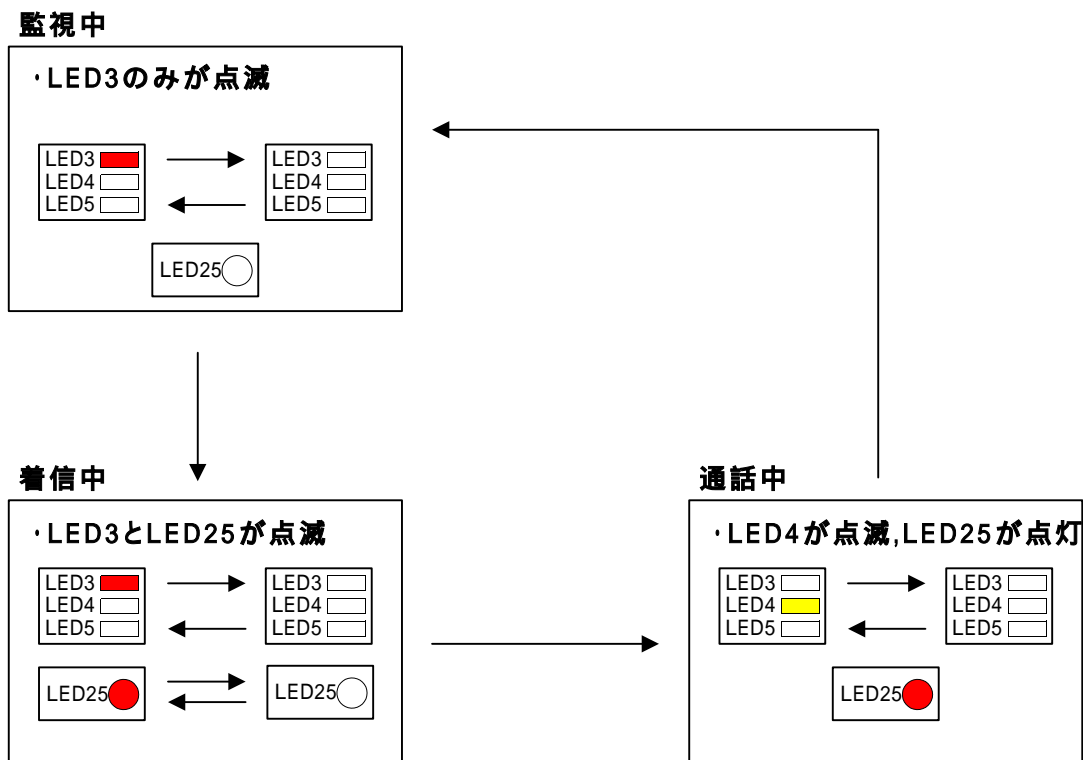


図4.3-4 状態LEDの遷移(PHS音声着信)

#### 【注意】

呼び出し音の代わりにメッセージが聞こえた場合。

「おかけになった電話は電波が届かない場所にあるか電源が入っていません・・・」

・開通済みであるが、電波が届かない。

「おかけになった電話番号は現在使われておりません・・・」

・開通手続きが未完了。

・開通済みであるが、基地局に対して位置情報が登録できていない。

## 5 設定作業

### 5.1 設定手順

#### 1) 着信操作

電話機(携帯電話)より本装置の電話番号をダイヤルする。  
通話状態になるのを待つ。

#### 2) ログイン操作

##09999 を入力します。  
本装置は結果を音声で応答します。

#### 3) 情報の設定操作

##1から##9のコマンドを使用して情報の設定を行います。  
各コマンドの詳細は「5.2 設定コマンド」を参照してください。

##1	非常音声連絡先電話番号1	必須
##2	非常音声連絡先電話番号2	任意
##3	データ通報先電話番号1	不要
##4	データ通報先電話番号2	不要
##5	Taroid(DTMF-ID)	任意
##6	非常音声発信待ち時間	任意
##7	Taroモード	任意(NTT回線でDPの場合は必須)
##8	かご内アナウンス録音	任意
##9	現場名アナウンス録音	必須

#### 4) 回線の切断

必要な設定が完了したら、通話を終了します(オンフック)。  
標準的な通話時間は約4分です、通話時間を経過すると本装置は回線を自動切断します。

## 5.2 設定コマンド

### 【##0】ログイン

機能 設定モードにログインします。  
入力 ##09999  
備考 パスワードの後ろに\*#を入力する必要はありません。

### 【##1】非常音声連絡先電話番号1

必須

### 【##2】非常音声連絡先電話番号2

任意

機能 非常音声連絡先電話番号1、2を登録します。

形式 ##1 ttt... ttt \* #

##2 ttt... ttt \* #

ttt... ttt: 非常音声連絡先電話番号

最大20桁(0~9, #)

#は桁間ポーズ3secを表します。

入力例 ##10454781234\*# 045-478-1234を非常音声連絡先電話番号1に登録。

##29#0123456789\*# 9-ポーズ-012-345-6789を非常音声連絡先電話番号2に登録。

備考 未設定で出荷。

### 【##5】Taroid( DTMF-ID )

任意

機能 Taroidを登録します。

形式 ##5 ttt... ttt \* #

ttt... ttt: Taroid

最大16桁の数字

入力例 ##51112345\*# 1112345をTaroidに登録。

備考 未設定で出荷。

Taroidは利用者が任意に設定できる、本装置の識別番号です。

非常通話発報時に自動でセンター側に通知します。

利用者はこの識別番号を現場を特定する為に使用することができます。

本装置では、後で述べる「現場名アナウンス」でも現場を特定できます。

### 【補足説明 Taroid】

・利用者が本装置を識別する為に付与できる識別番号です。

・非常通報時に本装置は自動でこの識別番号をセンター側の電話機に通知します。

・利用者はこの識別番号から現場を特定することが可能です。

本装置では、後述する「現場名アナウンス(##9)」でも現場名を特定することができます。

### 【##6】非常音声発信待ち時間

任意

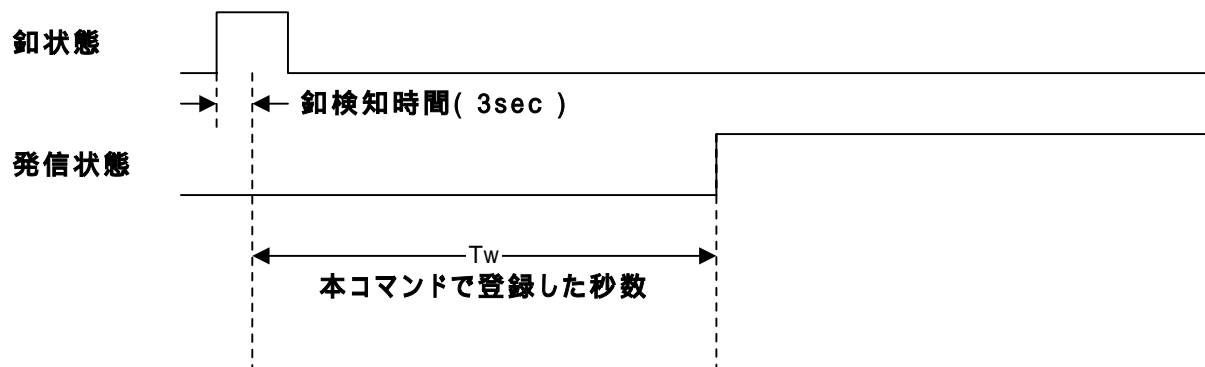
機能 非常音声発信待ち時間を登録します。

形式 ##6 nnn \* #

nnn: 非常音声発信待ち時間(秒)を3桁の数字(1~255)で指定。

入力例 ##610\*# 10秒を指定。

備考 出荷時の値は6秒。



発信種別が" 0 "の時、Tw内に親機が応答した場合は音声モード発信を行いません。

## 【##7】Taroモード

任意

機能 Taroモードを設定します。

形式 # # 7 n m l j k \* #

n : 電話回線種別の指定 ( PHS回線では無効 )

0 = PB - Tone

1 = DP 10PPS

2 = DP 20PPS

m : 発信機能の指定

0 = # # 6で指定した時間内に親機が応答したら非常音声発信を行わない。

1 = 親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う。

2 = 本装置では指定不可能。( Taro4機能 )

l : 着信時の応答方法の指定

0 = 音声応答。

1 = 自動判別。

2 = データ応答。

3 = 着信拒否。

j : 電源制御の指定 ( 本装置では無効 )

0 = 未使用。

1 = 工場出荷。

k : 非常音声発信時のブザーとアナウンスの制御の指定

0 = ブザー無し、アナウンス有り

1 = ブザー有り、アナウンス有り

2 = ブザー有り、アナウンス無し

3 = ブザー無し、アナウンス無し

4 = ブザー無し、アナウンス無し ( 相手応答まで )

入力例 ##710111\*#

備考 出荷時の値は"01111"です。

n = 0 : PB - Tone

m = 1 : 親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う

l = 1 : 自動判別

j = 1 : 工場出荷

k = 1 : ブザー有り、アナウンス有り

着信時の応答方法に下記の値をを指定した場合は、外部電話機からの着信による設定変更はできません。

l=2 ( データ応答 )

l=3 ( 着信拒否 )

この場合、非常通報発報を行って、相手電話機よりログイン操作をすれば設定変更可能です。

## 【##8】かご内アナウンス

任意

機能 かご内アナウンスを録音

形式 ## 8

入力例 ##8

動作 ## 8を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる。

"ピー"と言う音が聞こえたら録音開始。

送話器よりの音声を7秒間録音する。

備考 出荷時の録音内容は下記の通り

「ただいまセンターへ接続中です、しばらくお待ちください。」

出荷時の録音内容に戻すには「\* \* 3 8 0 0 \* #」を入力してください。

## 【##9】現場名アナウンス

任意

機能 現場名アナウンスを録音

形式 ## 9

入力例 ##9

動作 ## 9を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる。

"ピー"と言う音が聞こえたら録音開始。

送話器よりの音声を12秒間録音する。

備考 出荷時は録音されていません(無音)。

34 ページの現場名アナウンス再生機能をご参照ください。

## 【\* \* 3800】かご内アナウンスの消去

任意

機能 かご内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す

形式 \* \* 3 8 0 0 \* #

入力例 \* \* 3800 \* #

動作 かご内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す。

新たに録音する場合は「##8」を使用してください。

## 6 動作確認作業

### 6.1 発信動作・着信動作の確認

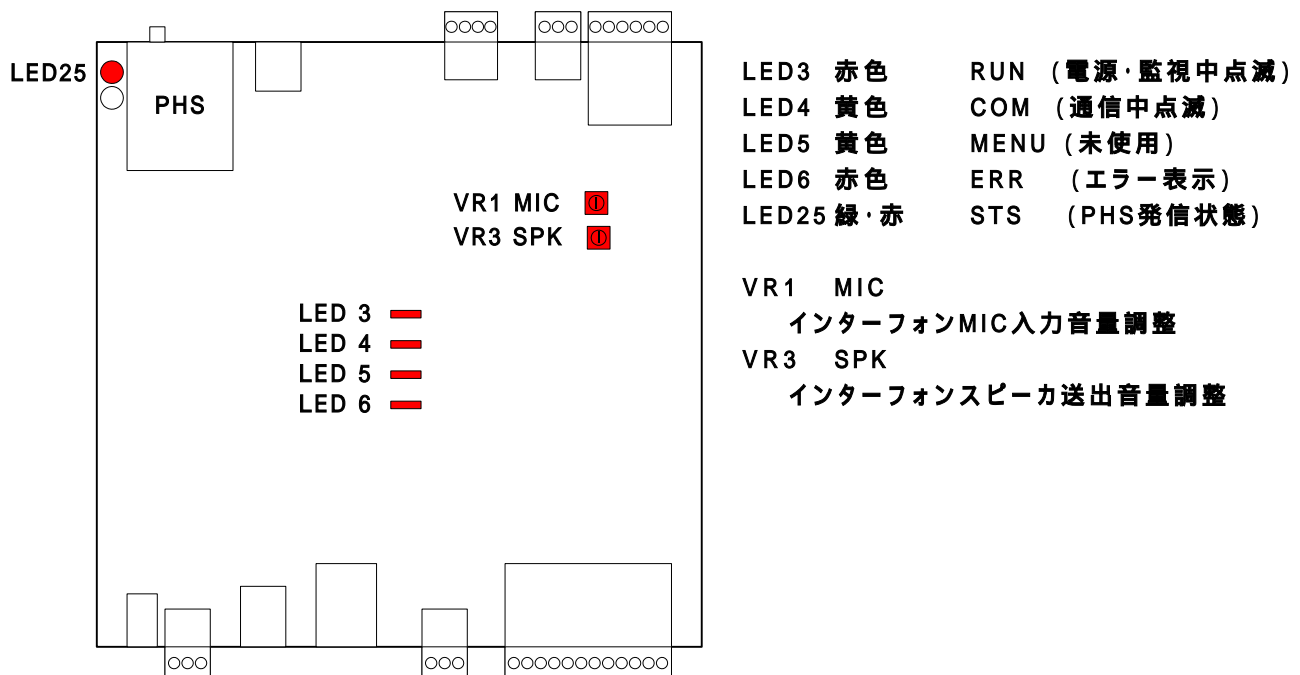


図6.2-1 実装図( 状態LED )

#### 1) 発信動作確認

かご内インターフォン子機の非常釦を3秒間押す。

非常釦が押された事を感じし発信動作を開始します。( 非常音発鳴します )

かご内子機にアナウンス( かご内アナウンス )が再生され、設定された電話番号に発信します。

設定された"非常音声連絡先電話番号1"に発信し、

「無応答」「話中」等で相手に接続できない場合は、次の電話番号に発信します。

"非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

接続されるまで、4サイクル( 8回 )繰り返します。

1: "非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

2: "非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

3: "非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

4: "非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

非常音声連絡先電話番号2が未設定の場合は、4サイクル( 4回 )繰り返します。

1: "非常音声連絡先電話番号1"

2: "非常音声連絡先電話番号1"

3: "非常音声連絡先電話番号1"

4: "非常音声連絡先電話番号1"

相手が応答すると"Taroid( DTMF-ID )"を通知後、相互通話が可能となります。

Taroid( DTMF-ID )が未設定の場合は、即相互通話になります。

Taroid( DTMF-ID )は通常、音声にて通知します。

相互通話は通常、4分間可能です。

相互通話可能時間の10秒前に警告音が流れ、相互通話可能時間を過ぎると自動切断します。

相互通話中の確認内容は"6.3 通話中の動作確認"を参照してください。

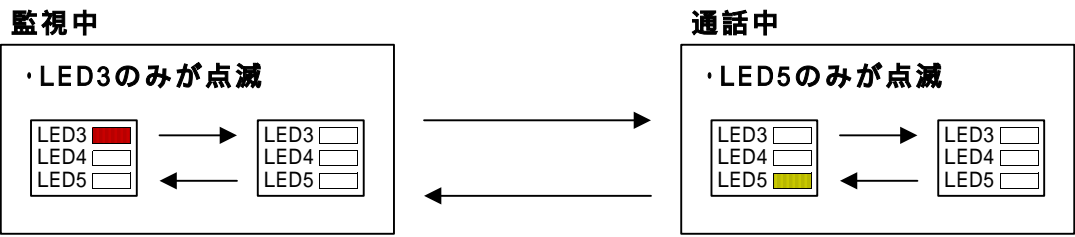


図6.2-2-a 状態LEDの遷移(NTT音声発信)

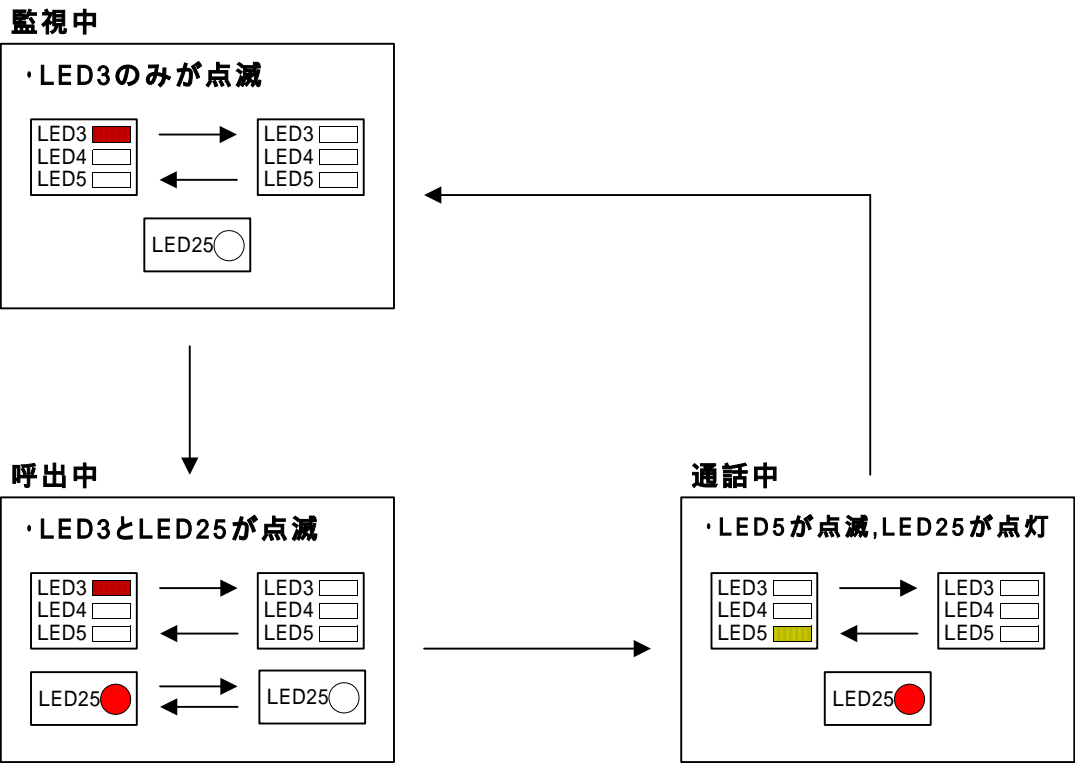


図6.2-2-b 状態LEDの遷移(PHS音声発信)



2) 着信動作確認

【NTT回線の場合】

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。  
ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。  
呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。  
連続音が止まると電話回線の接続通話状態になりますので、号機を選択してください。  
単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。  
詳細は ”6.3 通話中の動作確認”を参照してください。  
発信側より通話を終了することで回線を切断します。  
相互通話可能時間を越えと自動切断します。  
相互通話中の確認内容は”6.3 通話中の動作確認”を参照してください。

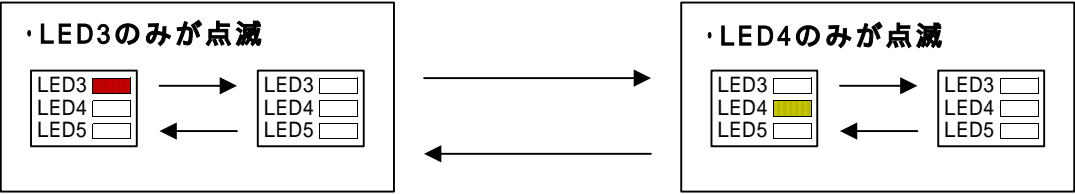


図6.2-3-a 状態LEDの遷移(NTT音声着信)

【PHS回線の場合】

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。  
ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。  
連続音が止まると電話回線の接続通話状態になりますので、号機を選択してください。  
単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。  
詳細は ”6.3 通話中の動作確認”を参照してください。  
発信側より通話を終了することで回線を切断します。  
相互通話可能時間を越えと自動切断します。  
相互通話中の確認内容は”6.3 通話中の動作確認”を参照してください。

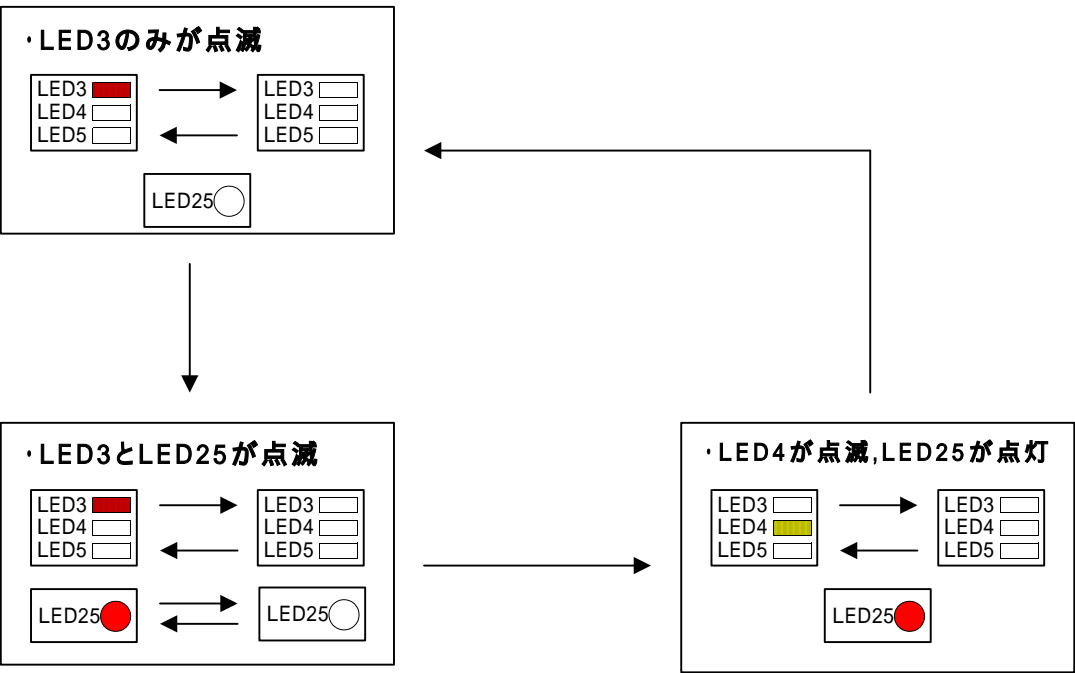


図6.2-3-b 状態LEDの遷移(PHS音声着信)

## 6.2 通話中の確認

### 1) 音量の調整

#### インターフォンマイク感度

VR1 MICをマイナスインプを使用して調整します。

#### インターフォンスピーカ音量

VR3 SPKをマイナスインプを使用して調整します。

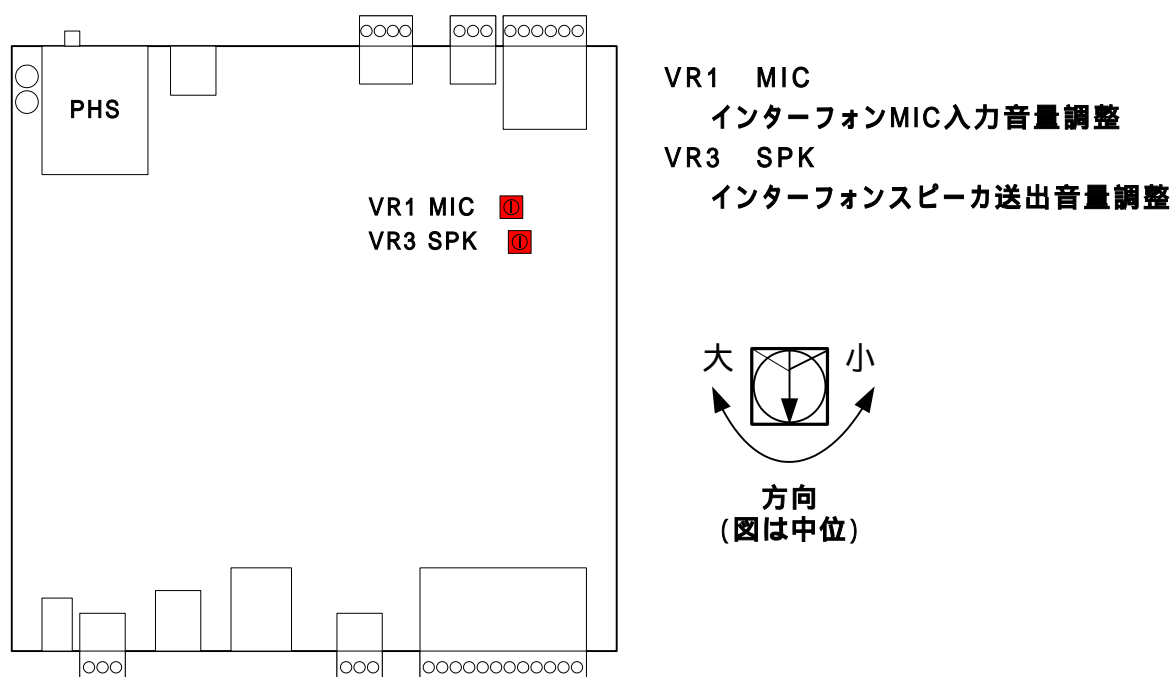


図6.3-1 実装図(調整用ボリューム)

### 2) 現場名アナウンス

センター側電話機より”#\*”を入力すると”##9”で録音した現場名アナウンスを再生します。

### 3) インターフォンの子機選択

センター側電話機より下記のコマンドを入力することで子機を選択できます。(単局・多局共に操作ください)

- # 1 1号機を選択します(1号機に切り替えます)
- # 2 2号機を選択します(2号機に切り替えます)
- # 3 3号機を選択します(3号機に切り替えます)
- # 4 4号機を選択します(4号機に切り替えます)

1号機と通話中に”#03”を入力した場合、通話先が1号機と3号機の3者通話になります。

- # 0 1 1号機を追加選択します(会議モード)
- # 0 2 2号機を追加選択します(会議モード)
- # 0 3 3号機を追加選択します(会議モード)
- # 0 4 4号機を追加選択します(会議モード)

# 9 全てのインターフォン子機の子機を選択解除します。

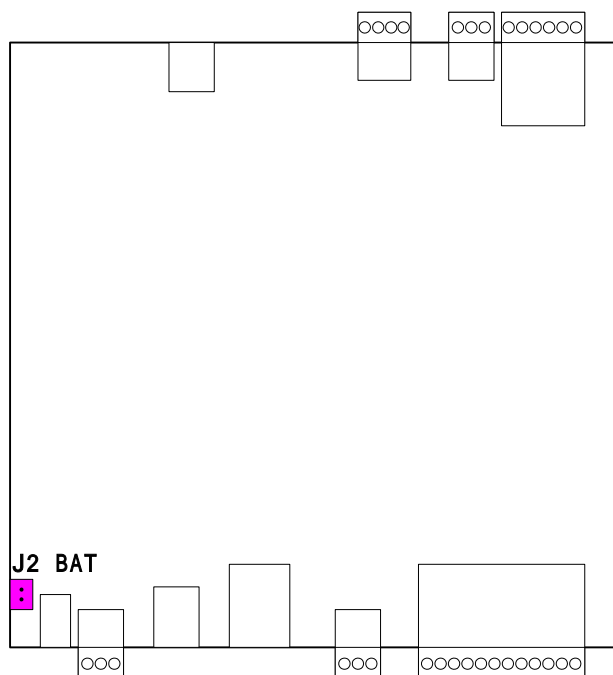
## 7 終了作業

### 7.1 バッテリーの接続

#### 1) バッテリーの接続

ACアダプター添付品(DT6- \*- \*B\*)の場合, J2-BATに付属のバッテリーを接続します。

注意) バッテリーは消耗品です、2年をめぐりに交換をお願いします。



J2-BAT バッテリーの接続箇所



#### 注意

2010年3月工場出荷分より変更

- バッテリー配置が変更になりました。
- 基板取り付けベースプレートを取り外しました。

図7.1-1 バッテリーの接続箇所

#### 2) 上蓋を閉じる

本装置の上蓋を閉じます。

## 8. 特記事項

## 1) 電源モジュール無しタイプ (DT6- \*- \* N \*)

## a. 外部電源 (DC9V) 要求仕様

- ・無停電保証電源であること。
- ・DC9V $\pm$ 0.5V (電流容量100mA $\sim$ 600mA)、リップルノイズ50mV以下、ピークノイズ無きこと。

## 2) NTT回線タイプ (DT6-M- \* \* \*)

本装置の直流回路の抵抗値は334 です。

線路抵抗条件によってはご使用できませんのでご注意ください。

## 9. インターフォン信号真理値表

## 9.1 6V単局 / 6V多局LEDランプ動作表示

基板のLED部品配置図は40ページをご覧ください。

6V単局					
LED番号	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	ON	ON	OFF	ON

6V多局					
LED番号	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	ON	ON	OFF	ON
LED13	OFF	ON	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED14	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED15	OFF	ON(1号機)	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16	OFF	ON(2号機)	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17	OFF	ON(3号機)	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18	OFF	ON(4号機)	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED19	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED20	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)

9.2 24V単局 / 24V多局LEDランプ動作表示  
基板のLED配置図は40ページをご覧ください。

LED番号	24V単局				
	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED13	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED14	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED15	OFF	OFF	ON	OFF	ON
LED20	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED21	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED22	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED23	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED24	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

LED番号	24V多局				
	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED13	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED14	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED15	OFF	OFF	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED19	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED20	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED21	OFF	ON(1号機)	OFF	OFF	OFF
LED22	OFF	ON(2号機)	OFF	OFF	OFF
LED23	OFF	ON(3号機)	OFF	OFF	OFF
LED24	OFF	ON(4号機)	OFF	OFF	OFF

## 【付録 1】装置仕様

表 付録1-1 動作環境仕様

項目	仕様	
動作温度	0～+45	
保存温度	-20～+60（梱包状態で）	
動作湿度	30～80%	
保存湿度	5～95% 結露なきこと（保存は保管梱包状態であること）	
温度上昇	+15 以下であること、ただし放熱器などは除く	
周囲雰囲気	腐食ガスがないこと、一般事務所程度	
漏洩電流	3.5mA以下	
絶縁抵抗	DC 500Vの試験電圧により3M 以上の絶縁抵抗であること。	
絶縁耐力	AC 1000Vの試験電圧により1分間耐えること。	
	または、AC 1200V試験電圧により1秒間耐えること。	
電圧変動	定格電圧±10%で誤動作しないこと。	*1
始動電圧	定格電圧の85%、115%での電源投入動作が正常に行なえること。	
瞬断	90% 0% 90%の瞬断で1サイクル継続しても正常に動作すること。	
突入電流	コールドスタートおよび、ホットスタート	
	42A以下、持続時間0.5秒以下	

\*1 ACアダプターを使用した場合( DT6-\*\*-B\* )

表 付録1-2 一般仕様

項目	細項目	仕様	
電源	DC電源	DC9V±0.5V、MAX600mA	*1
	AC電源	AC100V±10% 100VA	
電池	種類	ニッケル水素電池 7.2V 1300mAh	*2
	充電方式	トリクル充電	
	停電補償時間	30分以上	
	交換時期	2-3年	
耐振動		JIS C 0911準拠	
耐衝撃		JIS C 0912準拠	
発生塵埃		なきこと	
外形		245(L)×195(D)×60(H) 突起物はふくまない	
重量			

\*1 客先DC9Vを使用した場合( DT6-\*\*-N\* )

\*2 ACアダプターを使用した場合( DT6-\*\*-B\* )

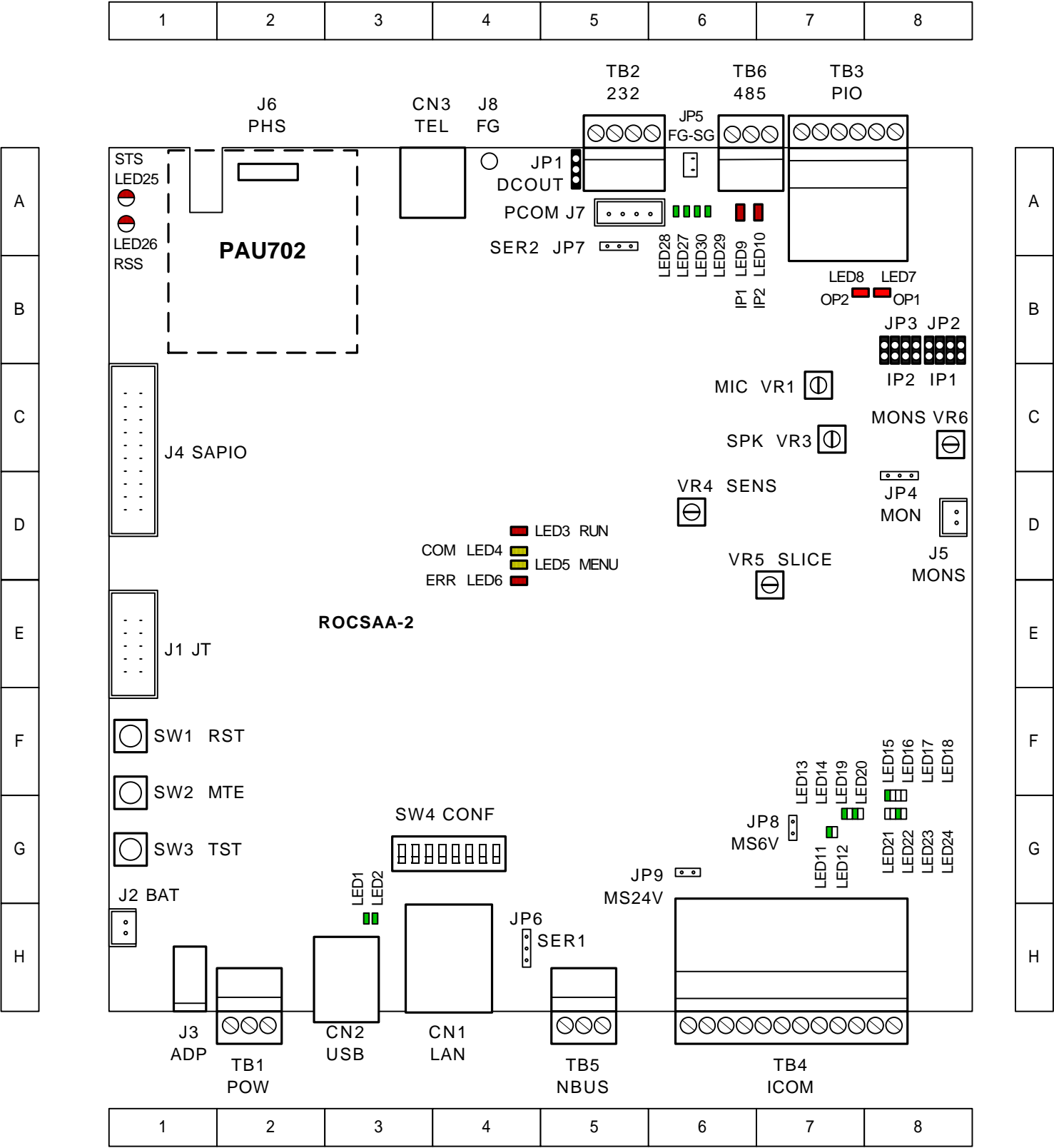
表 付録1-3 通信仕様

通信モジュール	項目	仕様
NCU (Modem機能)	適用回線	NTT公衆回線
	接続コネクタ	RJ 11 (モジュラー6極2芯)
	選択信号	DP ( 10PPS/20PPS ) PB
	直流抵抗	334
	網制御機能	自動 ( AA )
	自動発信・リダイヤル機能	有り
Modem	通信方式	V 2 2 bis準拠
	同期方式	非同期
	変調方式	QAM(2400bps)
	通信速度	2400bps
	送信レベル	-9dbm
	受信レベル	-9 dBm ~ -43 dBm
	不感動受信レベル	-45dBm
	技術基準適合番号	A08-0133004
PHS ( PAU-702 )	周波数帯	1884.65MHz ~ 1919.45MHz
	通信方式	時分割多元接続方式を使用する時分割複信方式
	伝送速度	384kbit/s
	技術基準適合番号	A06-0213001 , 001JXAA1138

表 付録1-4

DTMFコマンド	機能	ログイン
##0nnnn	ログイン(含むパスワード)	
##1tt...tt*#	音声モード電話番号1設定	必要
##2tt...tt*#	音声モード電話番号2設定	必要
##3tt...tt*#	データモード電話番号1設定	必要
##4tt...tt*#	データモード電話番号2設定	必要
##5nn...nn*#	Taro ID設定	必要
##6nnn*#	親機応答待ち時間(発信待ち時間)設定	必要
##7nmljk*#	Taroモード設定	必要
##8	かご内アナウンス録音	必要
##9	現場名アナウンス録音	必要
#*	現場名の再生指示	不要
#0c	多局用インターフォン子機の追加選択 (チャンネル)	不要
#1	多局用インターフォン子機選択 (チャンネル1)	不要
#2	多局用インターフォン子機選択 (チャンネル2)	不要
#3	多局用インターフォン子機選択 (チャンネル3)	不要
#4	多局用インターフォン子機選択 (チャンネル4)	不要
#9	多局インターフォン子機の選択解除	不要
**3800*#	かご内アナウンス録音の消去	必要

【付録 2】 部品配置図



注意) 型番によっては実装されていない部品があります。

図 付録2-1 部品配置図